平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

| 車系 | 8事業名 | 人権・多文化学習事業(旧:多文化共生事業) | 会計 | 一般 | 会計 | 事業No. | 776 | 施策順No. | 25-010 |
|-------------|--|------------------------|------|-------|----|-------|-----|-------------|--------|
| → 1. | ************************************** | 八作"多人儿子白事未(旧.多人)儿共生事未/ | 事業種別 | 政策·重点 | | 予算科 | 目 | 10-5-4-11-2 | |
| 政 | 策 | 2 地育力によるこころ豊かな人づくり | | | | 課等名 | 3 | 公民 | 館 |
| 施 | 策 | 25 共に歩む社会づくりの推進 | 事業期間 | 開始 | 7 | 終了 | | | |

1 事業の目的

| · デ末v | | •市民 | | | | | | | A:十分達成 した B:どちらか |
|---|-------------------|--|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------------------------------|
| | 対象 | 具体的な数値で表すと(対象指標) | | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | といえば選 成した |
| 事業の目 | 誰、何に | 飯田市の人口(人) | | 107259 | 106630 | 105691 | 105036 | | C:どちらか といえばて きてない D:ほとんと |
| サポのロー 的は「対 象」を「意 | | | | | | | | | 達成できて いない |
| 図」した状態にする ことです | | ・在日外国人は、日本語の習得による日本人とのコミュニケーション力の ・日本人は文化の違いや多様性の立場を理解し、国際感覚を養う。また、 | | | | | る。 | | |
| | 意図 | 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標) | 19年度 実績 | 20年度 実績 | 21年度 実績 | 22年度 目標 | 22年度 実績 | 23年度 目標 | 目標達度 |
| | 対象を どう変 えるか | 講座開催数(回) | | 284 | 189 | 200 | 186 | 250 | В |
| | | 参加者延べ人数(人) | 2792 | 3633 | 2740 | 3200 | 2642 | 4000 | |
| 22年度の目標達成と に対する振り返り 数値目標の対する実績数は十分とはいえない。しかし、意図することが講座回数、参加者数の目標達成で実現できるとはいえず、後期計画 (政策的事業のみ辞 する状態をどのように数的に表すか検討が必要。 | | | | | | | | | けては意図 |

2 手段(具体的な取り組み内容)

- ・外国人登録者(在日外国人)を対象とする日本語学習、生活全般に係る学習支援の実施。
 ・日本人を対象とする日本語学習、生活全般に係る学習支援の実施。
 ・市民と様々な国の人たちとの交流事業等、国際理解教室事業の実施。
 ・人権感覚を醸成するため、広く人権・平和学習の実施。

事業の制度 (仕組み)説明 米平成22年度当初までは「多文化共生事業」という事業名だったが、男女共同参画課にも類似の事業名があるため施策マネジメント会議の結果、「人権・多文化学習事業」と名称を改めた。

| | 事業内容 | 名称 | 活動量·単位 |
|--------------|---|------------------|------------|
| 22年度 事業内容 | 【橋南】人権講座「草木に学ぶ人権と多文化共生」、 【橋北、橋南、東野】3館合同文化講演会「破戒と大江礒吉」、 【松尾】中国語講座、 【龍江】人権教育講演会、カネト龍江公演、 【竜丘】中国帰国者支援事業「好友会」(日本語教室)、 【川路】人権教育講座、 【山本】国際理解教室、日本語教室、国際ふれあい交流会、 【伊賀良】かさまつ大学「いのちの使い方」、かさまつ大学「破戒と大江磯吉に学ぶもの」、 【南信濃】ハロウィーンパーティー、 【飯田市公民館】わいわいサロン、英語サロン、日本語交流ひろば「わいわいサロンⅡ」(文化庁委託事業) | 事業実施館数延べ参加者数 | 11館 2,642人 |
| 23年度 実施計画 | 学級・講座等の実施(各公民館) 3館合同文化講演会【橋北・橋南・東野】、・国際理解促進事業【橋南】、 人権講座・講演会【橋市・座光寺・上久堅・千代・龍江・川路・伊賀良】 食文化を通じた交流事業【羽場・丸山・東野・松尾・伊賀良】、日中文化交流会【松尾】 中国帰国者支援事業「好友会」(日本語教室)【竜上】、劇団カネト川路公演【川路】、 人権平和セミナー【三穂】、国際ふれあい交流会【山本】、人権・多文化教育講座【上村】 ハロウィンパーティ【南信濃】、わいわいサロン・日本語ボランティアの育成【市公民館】 など | 事業実施館数 延べ参加者数 | 14館3,000人 |

3 事業コスト

| | | (千円) | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 23年度予算額 | | ・H21:「生活者としての外国人」のための日本語教育事業〈文化庁委託事 |
|----|-------------|---------|---------|---------|---------|------------|---|
| | 结 | 国庫支出金 | 409 | 251 | | | 第 1100 「仕込む」での外屋上のための日本語教会事業(日本語教会の |
| | 一定 | 県支出金 | | | | 特定財 源内 | ・H22:「生活者としての外国人」のための日本語教育事業(日本語教室の 設置運営)く文化庁委託事業> |
| 当当 | 財 | 起 債 | | | | | 以色连百八人10万安时事末/ |
| 月春 | 源 | その他 | | | | 訳、補 足事項 | |
| | — f | 投財源 | 930 | 552 | | | |
| | 計 (A) | | 1, 339 | 803 | 884 | | |
| | 正規職員所要時間 | | | 608 | | | |
| | 臨時職員等所要時間 | | | 322 | | | |
| | 人 | 件費計 (B) | | 2, 520 | | | |
| | トータルコスト A+B | | | 3 323 | | | |

4 事業に対する市民や議会の意見

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

| 行財政改革 の取組区分 | 【記載不要】 | 具体的な 取組事項 | 【政策的事業のため記載不要】 |
|----------------------------|--------|--------------------------|----------------|
| 21年度決算と比 べての効果額 (千円) | 【記載不要】 | 効果額説明(算 出根拠)、特殊要 因 | 【政策的事業のため記載不要】 |

| (+H) C ###4## | 88 A B- | 40 87 | | | | | |
|--|-------------|-----------|---------------------------|-----------------------------|------------------|------------------|---|
| 6 前期4年 | 间の取 | | 4価(総括) [いに認め合い] | 善きわる | | | 日尚井江の中で「佐た並手」で行む」で、フェッカへ |
| | 位施策の目 | | 「^ パー単のなり、旦・() 1 | 寸 里で4 <i>V</i> の | | 施策の成果指 票又はムトス | 日常生活の中で人権を尊重して行動している人の割合(市民意識調査) |
| 結びつき的 | | | | | . † | 旨標 | 日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合(市民意識調査) |
| この事務事業 は施策の目的 達成にどのよ | 4年間の り返り | 冱 | | 皆数は概ね目標数に近い原 | | | 審住民との共生という2つの側面で事業を展開してきた。講 とも参加・受講者にとっては相互理解や尊重を考える機会 |
| 達成にこのように貢献しまし たか | 後期に向けた課題 | 7 | | 「回数や参加人数ではなく でみるべきである。 | 、参加者(受講者) ½ | ぶどう感じたカ | を機会ごとに把握することで、意図する状態に手段が結 |
| この事務事業の成果を向上させるためにど | 4年間の り返り | 振 | 権感覚の醸成 | | のブロック内で毎年 | | を図ってきた。 当館を置いて学習の機会を提供してきた。 |
| のような工夫を してきましたか | 後期に向けた課題 | | *続的に学習や | 交流の機会を提供していく | (こと。 | | |
| コストを削減す るためにどの | 4年間の り返り | | な支出は講師 | 謝礼であり、他事業とのバ | ランスの中で妥当な | 金額で運営し | てきた。無理な支出はせず執行残とした。 |
| ような工夫をし てきましたか | 後期に向けた課題 | 0 | i. | | | | |
| 受益者負担の 程度、市が関 | 4年間の り返り | | 5の関与は、学習 | 習や交流の機会提供であり | 適切だった。 | | |
| 与する程度は適切でしたか | 後期に向けた課題 |] | rl. | | | | |
| 多様な主体の役割 発揮状況 ①その主体は誰 どのような役割を たしましたか。 | の振 返り | 2 | | 国籍住民が主体的に学び のために学習や交流の機会 | | 参加者•受言 | 帯者は全市民の一部ではあるがその役割は果たしている。 |
| ②その主体が役割 発揮するために、 政はどのような働かけをしてきました か、又は、配慮しましたか) | 行き後期 | にた | 除加者(受講者)。 | がまだまだ少ない。 | | | |
| A 11 4 3 - 1 | 4年間の り返り | - 1 | 国帰国者や外 | 国籍住民を対象とした事業 | 薬、人権感覚の醸成 | を目的とした | 講座など継続的に展開してきた。 |
| 全体を通じて | 後期に向けた課題 | 0 | 、後も一過性の/ | イベント的な事業展開では | なく地道に継続性の | ある取組を対 | 進めていくこと。 |
| 7 「計争」「 | 辛國 に | 杜田 | !」の関係の確 | · 139 | | | |

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか ない 対象や意図を修正する必要はありますか ない 成果指標や指標値を修正する必要はありますか ある

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

| | □完了 | □拡大 | □縮小 | □別事業に統合 | □ 休止廃止 | ▼ 現状維持 | 目的見直し | ■事業のやり方改善 |
|--|-----|-----|-----|---------|--------|--------|-------|-----------|